

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	日常生活の中にある「まちのほけんしつ」
資金分配団体名:	公益財団法人信頼資本財団
実行団体名:	認定特定非営利活動法人マイママ・セラピー
実施時期:	2021年5月～2022年2月
事業対象地域:	滋賀県
事業対象者:	地域住民

Version 3.2

日付: 2022年2月28日

I. 事業概要

事業実施概要	<p>これまで20年間、母子に特化し社会保障制度の利用ができない妊産婦のケアを提供してきた。2020年以降の新型コロナの爆発的な感染拡大により行き場を失った人が地域にはあふれていたことから、母子特化を外し、すべての世代を対象としたケアへ拡大するために「まちのほけんしつ」へ移行した。</p> <p>メンバーは保健師・助産師・歯科衛生士・保育士で構成し、利用者は0歳児～94歳までと幅広くなり、相談内容は心身の不調に対する相談や講座などに対応した。マイママhouseでは「ご縁市」と称し保健室の運営をし、オンラインでは助産師が不安を抱える母子を対象に画面上で相談できる環境を設定した。</p> <p>公衆衛生の観点から教材を作成し利用する人に向けて情報の発信をした。</p> <p>商店街で「子どもの居場所」「おもちつき」など季節に合わせたイベントを商店街と共同で開催。</p> <p>衛生用品について赤ちゃん用紙おむつ・大人用紙おむつ・生理ナプキン・吸収パッドの配布をした。</p> <p>社会資源が減少している実社会の中で支援ができる人材の育成を目的に、専門職育成として、医師・助産師・保健師・保育士等が講師として対面講座とオンライン講座を開催。各種機関の応援もあり全国各地から人が集まった。</p>
--------	---

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>孤立・孤独化が予想以上に深刻で高齢者が一人で来て何気ない会話を長時間される。「大人の居場所も欲しい」という声を立て続けに聞かれた。マイママhouseへ学校から帰ってくる児童も存在した。各施設の予約制や時間制限は居場所を失い、健診も数か月先になり発達に不安を抱える母子も増えた。各種イベントの中止は社会的ダメージを拡大した。ご縁市開催では多くの方に理解を得られ寄付につながった。</p> <p>夜間の子ども預かりや孤食対応へ事業を拡大した。10代で妊娠・出産した女性の子どもたちが思春期に入り、第2子と父親が別の人になっている等が明らかとなり、思春期支援も必要であることがわかった。</p> <p>8月には災害級の雨のため避難所運営の応援として衛生用品の寄付と夜間まで健康管理スタッフとして入った。</p> <p>衛生用品は赤ちゃんや高齢者も同じように困難を抱えている実態がみられた。ご縁市開催日には100人/日ほどの利用があり、会話を楽しんでいる姿が見られた。緊急事態宣言の時ほど商店街には人が多く、解除後は人の流れが各地へ分散した。利用者や商店街の中にインフルエンサーが存在し、商店街からもメールを送ってもらい人が人を呼ぶという口コミの大きさを実感した。</p>
-------------------	---

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
その他	相談先の不足	マイママhouseでの相談実施での相談事業	3～6回/月	3～6回/月	59回 2,980人	1日の利用者が多い日では100人を超えた。口コミで広がりを見せ、ママ友が集まったり商店街の中で紹介をされた方が来てくださったりした。
その他	居場所の不足	助産師によるオンライン相談と講座の開催	80回	80回	80回 利用者数 250人	助産師がチームを作り、役割分担をして80回のオンライン相談を開催。全国各地から相談がきている。
その他	その他	教育教材の作成と放映	50本	50本作成	50本作成	助産師・歯科衛生士・保健師・保育士等の協力を得てコロナ関連や日常の子育てに関する情報の教材を作成。当初画面を商店街に向けて発信予定であったが、お部屋の利用者にも見ってもらえるよう状況により利用方法をへ変更した。
その他	その他	衛生用品の配布	1000セット	1000セット準備	976人へ配布 24セット在庫管理	配布に関しては大津市社協や商店街の方に協力をえてスムーズに配布できた 防災備蓄品として、32セット在庫管理
中間支援者	その他	専門職講座による人材育成	10回講座	10回講座	10回開催 講座参加者数 197人	テーマに合わせて、専門職が集合された。オンラインでは健やか親子21の協力を得て周知をしてもらった結果全国規模開催となった（シドニーからの参加あり）

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	<p>感染症の拡大や大きな災害発生は社会資源の減少を伴うことが示唆された2年間だった。この中で必要なことはできるだけ多くに人を対象に気軽に相談できる環境の設定が必要であることを痛感した。越したことを受け、「まちのほけんしつ」運営に向けた事業拡大したいと考えた。</p> <p>居場所をなくした人・相談する人を見つけられない人・自分の時間を有効に利用すり竹の環境設定として、全国100か所のほけんしつを立ち上げるために必要な準備をするための事業化を本格的に手掛けていく必要があると考えた</p>
考察等	<p>この1年間での活動を、TwitterなどのSNSを通じて発信してきた。その結果、自分の町にも保健室を創りたいという声が各地から聞かれるようになった。</p> <p>次年度以降、公衆衛生に携わる人で、オリジナルほけんしつを創設したい人を対象に6回シリーズで講座を開催し、3年で100か所ほけんしつ設置計画を立てた。</p> <p>すでに問い合わせなどが10件程度あり、2月末までに内容を詰め、3月から募集開始。5月開講できるようタイムスケジュールを立てる準備を始めた。</p>

V. 活動

活動	進捗	概要
ほけんしつとしてのご縁市開催	計画通り	緊急事態宣言が出ているときは利用者が多かった。社会資源の減少により行き場を失っている人が利用された
オンライン相談	計画通り	不適ではあるが期間中80回の相談や講座を助産師チームが対応。主に母子対応。ときどき更年期対象
衛生用品の配布	計画通り	2月末完全配布。ただし、2021年度の災害を振り返り、大人用16袋・赤ちゃん用16袋災害時備蓄用として残すこととした。
教育教材の収録。編集	計画通り	当初部屋から外へ向けて流していたが、お部屋内利用者増加により部屋の中で見られるようにもした。
スキルアップ講座	計画通り	対面式・オンライン式開催。テーマに合わせて必要とする人が参加されている。「更年期と性」は81人申し込みがあった。
マイママ通信	計画通り	助産師のアウトプットの場として活用することができた
商店街との協働事業	計画通り	一緒に計画をしながら住民の方に喜んでもらう頃ができた。こどものいばしょでは300人の参加者があった。
居場所づくり	計画通り	地域の中から出てきた声から、スタッフが手分けをして0歳児～94歳の方まで利用していただけた（延べ数4232人）

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<p>①特化を外し誰でも利用できる環境設定が、地域の安心できる居場所として定着した。想像をはるかに超えて年代を問わず孤立している人が非常に多いという印象を受けた「ここ何屋さん？」とよく聞かれた。「今はどなたでもご利用いただけるほけんしつです」という紹介が口コミで広がり、人が人を呼び込む展開となった。</p> <p>②子ども食堂が必要な人は紹介する予定であったが、マイママhouseへ帰ってくる子が存在することがわかり、継続してかかわることとした。そこでの発見は10年前にかかわっていた少女の子どもが思春期を迎えているという実態を知ったこと。若年出産でも地域の中で継続ケアを提供できる環境の必要性を感じた。集まってくる子どもたちにとっては、若い男性スタッフの存在が利用しやすい環境にあったのかもしれない。</p> <p>③昨年は大雨災害が発生し避難所運営が地域でされた。着の身着のまま避難所へ来られ薬も持たずに不安を抱えておられる方に保健室として寄り添わせていただいた。</p> <p>④緊急事態宣言下のもとで商店外と連携をして「こどものいばしょ」「お餅つき」を開催した。「こんな時に？」を「こんなときだからこそ開催」したことで子どもたちの笑顔を見ることができた。</p>
---------------------	--

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<p>次年度への開館希望について多くの声があるが、具体的な事業形態について考えられることをいかに記載する。</p> <p>①地域の中で気軽に相談したり、講座を受けたり、ゆっくり休んだりできる居場所として、ようやく定着してきた。継続して開館日を定例化することも検討中。②固定費（家賃・光熱費等）・人件費・その他必要経費等ついて、受益者負担をお願いすることと、認定NPO法人という税金控除の仕組みを理解してもらいながら寄付を募り、資金を確保する。③助成金を継続的に申請する。④家賃が安いところへ転居する。⑤「ほけんしつ」運営についてのノウハウ講座を開催し、各地でのほけんしつ運営のサポートを展開する。</p> <p>*現状を維持しながらマイママhouseの活用をどのようにするのかについては、3月の理事会や役員会・協力してくれた淡海助産師友の会メンバーとも協議を行う。</p> <p>*利用してくださった方々には、2月にインタビュー形式でどのような形であれば利用しやすいか再確認を実施する。</p>
-----------	---

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
淡海助産師友の会	オンライン相談・まちのほけんしつでの相談を継続して担当
百ちゃん	子どもの居場所・お餅つき大会開催に参加・協力
大津市社協	一人親フェスティバルへにおける母子相談依頼（8月21日）（緊急事態宣言で中止）・衛生用品の配布（郵送にて配布された）
健やか親子21	オンライン講座の周知依頼
あさいこどもクリニック	講座講師と地域の居場所についてアドバイスを受ける
SP-Womam	講座講師（馬場環・木村路子・西村さつき）と人材育成について検討する（浅井和美）

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	11,100,000	11,100,000	100.0%
	管理的経費	900,000	900,000	100.0%
合計		12,000,000	12,000,000	100.0%
補足説明				

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	読売新聞（2021年6月29日朝刊 滋賀版にて掲載テーマ「ご縁市育む地域の輪」 KBS京都（ラジオ取材）2022年1月6日笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ「今朝の聞くサブリ」生出演テーマ「だれも取り残さない『まちのほけんしつ』オープン」
2.広報制作物等 当該事業費を使って制作したもの	
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	送っていただいた休眠預金シンボルシールを衛生用品に貼付して利用者へ配布した。
4.報告書等	

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	期間中に整備完了
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	一部未公開	ホームページ上で公開準備中 2022年度中に公開予定
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しましたか。	いいえ	2022年度以降に理事会にて提案し、担当について検討をする
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 外部監査 <input type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	

XII. その他

自由記述
<p>【この2年間で、地域の人たちにとって増加したもの】</p> <p>あいまいな情報・不安要素・出たいけど出られないという抑圧や会話がままならないというストレス・人の弱さと強さ・手洗いや消毒の機会・社会資源が減少したという思い</p> <p>【地域の人たちにとって減少したもの】</p> <p>人と人とのつながり・社会資源・コミュニケーション・交流・ ≪3間≫ (さんま) (仲間・空間・時間) 相談できる人・相談できる場所・ホッとできる時間</p> <p>【マイママ・セラピーにとって増加したもの】</p> <p>人と人とのつながり・信頼関係・「ここがあって救われた」という声・スキルを上げた人材の確保・専門職集団・備品の増加でオンラインの強みができ、地域に向けて情報発信ができるようになった・衛生観念への周知・助成金と地域住民へのサポート・応援する人たちのこころの強さ</p> <p>‘【マイママ・セラピーにとって減少したもの】</p> <p>収益事業・キャッシュフローの流れが見えない販路・自己資金</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大以降、何を捨てて何を残すかをスタッフ一同が考えた期間になった。結局、地域で活動できる公衆衛生専門職を社会資源として育成しもっと増やし活動できる場を拡大する必要があると一致した意見となった。</p> <p>各所が閉鎖や時間短縮・時間制限などの世代にとっても今まで通り利用できる社会資源は確実に減少した。普段から「ほけんしつ」というのは、心身の変化が見られた時に利用することが多い。新型コロナウイルス感染症はまさに「ほけんしつ」を利用できる環境にあり、多くの方が居心地の良い居場所として気が付いていただけたと思う。このまま感染症が落ち着いたのちも、多くの方が利用できる居場所であり、「3間」(相談できる人・休憩できる場所・ホッとする時間)として利用してもらえよう「まちのほけんしつ」を残していきたいと考えている。学校にほけんしつがあるように・企業にほけんしつがあるように「まちのなかにもほけんしつ」を作り続けるために人材の発掘や育成をしていきたいと思います。</p> <p>別紙パワーポイントにて詳細報告しました。</p>